

2018年JAF中部ジムカーナ選手権第8戦 2018年JMRC中部ジムカーナ選手権第8戦
2018年JMRC全国オールスター選抜第8戦 ハイスピードジムカーナ in AROSA II [JAF公認No.2018-2123]

開催日：9月23日 開催場所：イオックスアローザスポーツランド 格式：準国
主催：TOMBO [クラブ登録No.加盟16010]、ABC [クラブ登録No.加盟16004]

フォト／友田宏之 レポート／JAFスポーツ編集部

丁寧なライン取りで優勝の下原幸登選手がチャンピオンを確定!



PN2クラスで優勝した下原幸登選手。「辛いシーズンでしたが、今日でチャンピオンを確定しました!」と嬉しいコメントを残した。

秋

晴れというよりも残暑という言葉が相応しい陽気の9月23日、富山県のイオックスアローザで中部ジムカーナ選手権第8戦が開催された。前日まで雨が降っていた影響もあり、コース上には砂が浮き出るという路面コンディションだったが、当日は84台のエントリー車両が集結した。

すでに前戦までにチャンピオンが確定したクラスもあったが、この最終戦までもつれ込んだクラスもあり、緊張感が漂う雰囲気の中で競技は進行。注目はチャンピオン未確定のPN2とDの2クラス。ポイントは僅差だけに、チャンピオンの可能性が残る選手はいつも以上に気合が入っていた。

PN2クラスは4台が参加、1ヒートめから1分23秒台が連発する争いとなった。辺城拓郎選手がコンマ172秒を叩き出して他選手にプレッシャーを与えると、下原幸登選手がコンマ469秒、土手啓二郎選手がコンマ884秒と追従する。そして命運を分ける2ヒートめ、唯一1分22秒台に突入したのが、シリーズポイントトップの下原選手だ。他の選手は1ヒートめのタイムを上回ることができず、下原選手が優勝した。

「雨の次の日は砂が乗って滑るのは分かっているんで、1本目の後半ゼッケンのみなさんの走りを見て、どの辺を走れば正解だっているのは目星をつけていました」と下原選手は競技を

振り返った。表彰式では嬉しさのあまり鼻血が出てしまった様子で(!)、勝ってチャンピオンになったことを素直に喜んだ。

後半出走のDクラスは、シードゼッケン01をつけて走るポイントランク2番手の村上仁選手と、ポイントリーダーの佐藤宗嗣選手の一騎打ち。結果は1分15秒649という他を寄せ付けない速さを見せつけた村上選手の完勝。

「最近、佐藤選手の追い上げがキツくて、このままではきっと負けてしまうだろうと。でも想像していた以上に自分の思った通りにクルマが動いて、今日はガンガン行けました」と、村上選手はシードゼッケンに相応しい走り、昨年に続きチャンピオンを死守した。

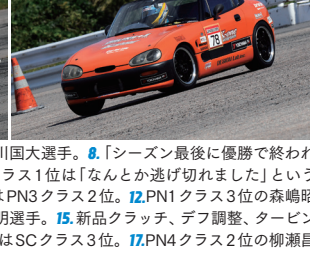
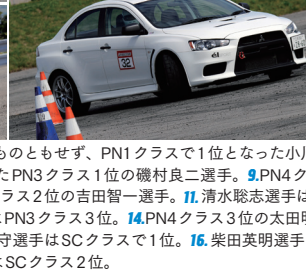
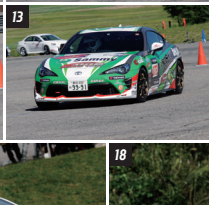


PN2クラス／1.シリーズチャンピオンの望みをかけて挑んだ辺城拓郎選手は2位。2.2ヒートめで自身のタイムを約1.4秒も縮めたものの、惜しくも3位となった渋谷達也選手。3.左から2位の辺城選手、1位の下原選手、3位の渋谷選手。



Dクラス／4.「多分曲がれるだろうとクルマに語り掛けて…」と1位の村上仁選手、ここでチャンピオンを確定させた。5.今シーズン、村上選手にプレッシャーをかけた佐藤宗嗣選手は2位。6.3位は1ヒートめのパイロンタッチが悔やまれる五十嵐豊光選手。





7. 出走順の早さのハンデをものともせず、PN1クラスで1位となった小川国大選手。8. 「シーズン最後に優勝で終われて良かった」と感想を述べたPN3クラス1位の磯村良二選手。9. PN4クラス1位は「なんとか逃げ切れました」という佐々木雄史選手。10. PN1クラス2位の吉田智一選手。11. 清水聡志選手はPN3クラス2位。12. PN1クラス3位の森嶋昭時選手。13. 上本昌彦選手はPN3クラス3位。14. PN4クラス3位の太田明選手。15. 新品クラッチ、デフ調整、タービン変更して挑んだという桃井守選手はSCクラスで1位。16. 柴田英明選手はSCクラス3位。17. PN4クラス2位の柳瀬昌樹選手。18. 鈴置友洋選手はSCクラス2位。

PN1クラスは「ワイドなラインで車速を乗せて走りました」と、今季参戦した大会はすべて優勝の小川国大選手が好タイムで1位。PN3クラスはすでにシリーズチャンピオンを決めている磯村良二選手が1位を獲得、「全日本でも表彰台に上がりたいです」と抱負を述べた。PN4クラスはシリーズチャンピオンに一矢報いたい佐々木雄史選手が「最終戦でやっと勝たせてい

ただきました」と1位の喜びを噛み締めた。SA1クラスは中部と近畿のシリーズを掛け持ちしている島田昌典選手が、前戦でチャンピオンを確定しているも勝利数にこだわり1位獲得。大接戦だったSA2クラスはイオックスを熟知しているという榎本利弘選手が、コンマ004秒という僅差で1位となり逃げ切った。

SA3クラスは「イオックスのコースが好きで

す」という佐久間正人選手が、第6戦のイオックス開催の優勝と併せて2連勝の1位。SA4クラスは岡部隆市選手がヒート2でコンマ056秒差の大逆転を果たし、今季初の優勝を飾って雪辱を果たした。SCクラスは桃井守選手が1位となり「来シーズンも今季同様、地区戦はチャンピオンを、全日本では表彰台を狙います」と意気込みを語った。

19. 勝利数でもトップを狙ったというSA1クラスの島田昌典選手は見事1位に。20. 「イオックスのコースは好きなので勝て良かった」というSA2クラス1位の榎本利弘選手。21. SA1クラス2位の横山和彦選手。22. 隅田敏昭選手はSA2クラス2位。23. SA3クラス2位の安部洋一選手。24. 西田哲弘選手はSA4クラス2位。25. SA1クラス3位の酒井昭選手。26. 加田充選手はSA2クラス3位。27. SA3クラス3位の小澤忠司選手。28. 山田拓選手はSA4クラス3位。29. 「(PN1クラスの)森嶋選手のアドバイスで勝てました」というSA3クラス1位の佐久間正人選手。30. SA4クラスの1位は「奥伊吹以来の優勝で嬉しいです」と喜びをあらわにした岡部隆市選手。

